

平成19年度「大学と連携した地域づくり」助成事業の採択について

平成19年度「大学と連携した地域づくり」助成事業（財団法人地域総合整備財団）について、秋田市と秋田公立美術工芸短期大学が連携して取り組む『（仮称）新屋湧水広場整備プロジェクト』が採択されました。

1 「大学と連携した地域づくり」助成事業とは

財団法人地域総合整備財団（通称ふるさと財団）が、地域の活性化、住民の生活環境の改善を目的とする市町村の「大学と連携した地域づくり」を支援するものです。

平成19年度「大学と連携した地域づくり」助成事業については、全国から90件の応募があり、「大学と連携した地域づくり」推進委員会（委員長：坂村健・東京大学大学院教授）において審査の結果、15件が選定されました。

【参考】財団法人地域総合整備財団 <http://www.furusato-zaidan.or.jp/>

2 背景

新屋表町通りでは、これまで秋田市と大学コンソーシアムあきたの連携による「平成17年度全国都市再生モデル調査」で学官連携による景観形成のパイロット事業が提言され、平成18年度には、地元住民、美術工芸短大、市が連携して、景観に関するワークショップ等を実施し、「新屋表町通り景観まちづくりガイドライン」を策定したところです。これらの取り組みにより、参加した地元住民や美術工芸短大の通りの景観形成に対する気運が高まってきました。また、取組みの中で、通りの重要な景観資源である湧水を活かした景観形成について提案されました。

このような中、「愛宕下お地蔵湧水の里」の隣接地が売り出されたことを契機に、この地を公共の広場として整備し、地域の歴史を後世に遺す拠点としたいとする地元の強い意向が示されました。これに対し、市が、地元による用地確保や施設管理を前提に休憩施設等の整備を提案したところ、地元の団体が当該用地を購入し、施設管理を約束したことから、地元住民・大学・行政の協働による公共広場の整備がスタートしました。

【参考】「大学コンソーシアムあきた」と「秋田市」との連携によるまちづくり方策調査～美しいまちづくりに向けた学官の協働体制の構築～（平成17年度全国都市再生モデル調査）

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/mn/04kankyou/renkei/default.htm>

新屋表町通り景観まちづくり

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/mn/04kankyou/renkei/araya.htm>

3 取組みの内容

(1) 事業名

（仮称）新屋湧水広場整備プロジェクト

(2) 事業概要

新屋地区の良好な景観形成・活性化の先駆けとして、新屋表町通りにある湧水地の1つ「愛宕下お地蔵湧水の里」を、「（仮称）新屋湧水広場」として整備するものです。

(仮称)新屋湧水広場整備プロジェクト位置図



新屋表町通り
 H18 市民・産学官協働景観形成事業

- ・景観に配慮した通りの保全と活用の重要性が再認識された。
- ・今後は実践的な取組みが求められている。



國萬歳酒造(株)
 H17 第18回都市景観賞受賞
 H17 登録有形文化財



愛宕下お地蔵湧水
 H18 新屋街路灯組合による用地購入
 H19 「(仮称)新屋湧水広場」整備プロジェクト



H森川酒造店
 18秋田の街並み景観写真展
 優秀賞作品「秋田の酒処」



- ・地元と大学の協働関係の強化
- ・良好な景観形成と景観資源の保全や活用

